

第4回定例会

・審議した議案①

第4回定例会が12月13日から14日の間で開催され、一般会計のほか4特別会計の補正予算と条例4件などの議案審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。



農業新規担い手宿泊施設「ほーぶすたーサロマ」

農業新規担い手確保に向けて
宿泊施設建設の補助
1910万円

予算

一般会計補正で
8440万円増

■平成29年度一般会計補正予算(第5号)
8440万円が追加され予算額が54億683万円になりました。

主な歳出として、農業新規担い手確保支援対策事業として、受け入れに必要な宿泊施設の整備に1910万円を補助したほか、障がい者総合支援費に1441万円、法改正に伴う行政システムの改修経費の負担に830万円を計上しています。

■平成29年度簡易水道特別会計補正予算(第2号)
69万円が追加され予算額が2億8204万円になりました。

■平成29年度公共下水道特別会計補正予算(第3号)
71万円が追加され予算額が2億8441万円になりました。

■平成29年度介護保険特別会計補正予算(第2号)
167万円が追加され予算額が5億4134万円になりました。

■平成29年度介護サービス事業特別会計補正予算(第2号)
331万円が追加され予算額が2億8189万円になりました。

農業新規担い手宿泊施設「ほーぶすたーサロマ」を、産業文教常任委員会が現地調査いたしました。記事は14ページに掲載されています。

特別会計の補正は、主に人事院勧告に基づく職員の給与改定によるものです。



特集 中学生の見る議会



佐呂間中学校3年生 一般質問傍聴



議員の姿は生徒たちの瞳にどう映るのか



別室のモニターで中継を見つめる

12月13日、佐呂間中学校3年生(40名)が総合学習の一環として町議会を訪れ、第4回定例会の初日、一般質問を傍聴しました。生徒たちは議員の質問する様子に聞き入っていました。これを引きにつけに町づくりに関心を持ち、将来の議員候補になるかもしれません。

第4回定例会

- ・補正予算質疑の中から
- ・請願と陳情について

第4回定例会

- ・審議した議案②

条例

■平成29年度一般会計補正予算(第6号)
110万円が追加され予算額が54億793万円になりました。
網走海区漁業調整委員会委員選挙に要する費用を計上しています。

■人事院勧告をボーナスに反映 4・4カ月に
■町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正
■特別職の給料額及び旅費額並びにその支給条例の一部改正
■職員の給与に関する条例等の一部改正
人事院勧告に基づき、平成29年から議員、町長、副町長、教育長及び職員ボーナスの支給月数を0・1月引き上げ4・4カ月とする条例改正を行いました。
さらに、職員の給与を平均0・2%引き上げる給料表の改正を行いました。

その他

■乳幼児等医療費助成に関する条例の一部改正
満15歳までとされていた医療費無料化の対象年齢を、平成30年4月から満18歳までに拡大する条例の改正を行いました。高校生までの医療費が無料化され、町外高校に進学する高校生も対象となります。

■戸籍に係る電子情報処理組織の事務の委託に関する規約の変更
戸籍システムの共同利用に伴う委託町に、むかわ町、当町のほか、新たに寿都町を加える改正を行いました。
■損害賠償の額の決定
ふれあいバスの接触事故による、町の損害賠償の額が決定されました。
・損害賠償の額
2万6303円

意見書

■専決処分承認
平成29年度一般会計補正予算(第4号)の専決処分について承認しました。
893万円が追加され予算額が53億2243万円になりました。
27年間使用してきた議場音響設備が故障したため、緊急を要することから専決処分を行い、機器等の更新工事に要する費用を補正したものです。

■持続可能なオホーツク畑作政策と「ばれいしょ増産輪作推進事業」の万全の予算確保などを求める要望意見書
北海道の主産地形成を担うオホーツク地域から、土地利用型畑作農業の持続的発展が図られる畑作政策の拡充、強化が求められています。
持続可能な畑作政策と、ばれいしょ増産輪作推進事業の予算確保等について、生産現場の意見を十分に踏まえた万全な政策を求める意見書が可決され、関係大臣宛に提出されました。



ばれいしょ生産の一層の拡充が求められる



補正予算
質疑の中から

◎障がい者総合支援扶助費について

【質問】扶助費の利用者増とのことだが、その内訳は。

【答弁】障がい者福祉サービスの就労移行支援の利用が2名あり、またグループホーム利用者が施設入所支援や行動支援など複数のサービスを利したことから、利用が増え、7月末現在で延べ利用人数が84名となっております。

◎介護保険について

【質問】福祉用具購入費の増額の内訳は。

【答弁】当初予算に比べて、現在のところ利用者が多いことから、今後まだ利用されることを考え、数名分として、22万5千円を計上させていただきました。

◎網走海区漁業調整委員会委員選挙について

【質問】新しい委員の任期は、前任者の残り任期となるのか。

【答弁】現在の調整委員会の委員の定数は15名です。うち9名が公選の委員で、その中のおひとりごとなくなられたため、補欠選挙をするものです。現在の委員の任期については、改選のあった去年の8月8日から4年間ということになりますので、今回当選されれば、その残任期間ということになります。

「網走海区漁業調整委員会」

オホーツク海沿岸の海区において、漁業法及び地方自治法に基づき設置された、漁業に関する事項を処理する機関。
主な業務として漁業権の設定等を行っている。

請願と陳情について

請願・陳情は、国、道、町政に住民の皆さんの意見や要望を反映させる方法の一つで、個人、団体を問わず誰でも提出することができます。

《 記載例 》

<p>(表紙)</p> <p>〇〇〇〇〇〇〇〇に関する 請願書 (陳情書)</p> <p>紹介議員 〇〇〇〇 ㊟</p>	<p>(本文)</p> <p>〇〇〇〇〇〇〇〇 に関する請願(陳情)</p> <p>要旨</p> <p>理由</p> <p>平成〇〇年〇〇月〇〇日 佐呂間町議会 議長 〇〇〇〇 殿</p> <p>佐呂間町字〇〇町〇〇番地 〇〇〇〇 ㊟</p>
--	---

※陳情書の場合は、紹介議員は不要です。

第4回定例会

第4回定例会

・町長行政報告②

町長より行政報告がなされました。

・町長行政報告①

町長行政報告

(要旨)

不安定な気候に農作物が影響を受ける

■農業情勢について

今年は雪解けも早く、作物のつきつけも順調に進み、生育は平年並みに推移しておりましたが、不安定な気候により農作物全般に大きな影響を受けた年となりました。

ヒートについては8月以降も低温傾向が続きましたが、糖分は順調に上昇し、現在搬出作業後の結果待ちとなっております。

産地パワーアップ事業により取り組んだ大豆生産利用組合の大豆収穫については、発芽後の低温が影響し、小玉傾向となっております。

畜産の生乳生産については、8月以降は対前年比102.3%と伸びており、搾乳戸数の減少分を畜産クラ



生乳生産に大きな期待がかかる

スター事業実施主体者が補い、計画していた4万5千トンを若干下回る4万4100トン程度となる見込みで、今後の生乳生産に大いに期待するところですが。

酪農畜産の販売額では、乳価の引き上げや個体販売全体が堅調に推移したこともあり、当初計画83億円に対し、実績では1.5%減の81億7200万円程度となる見込みです。

全体では、計画98億2千万円に対し、実績では4.6%減の93億7200万円程度と見込まれるとのことです。

■漁業について

当初計画5300トンでスタートした外海ホタテ漁業については、12月20日までの操業予定で、6千トン程度の水揚げを見込み、キロ平均単価210円の高値で取引さされ、養殖ホタテの生産量も、計画とおりの1680トンが見込まれて、価格高騰から、販売額は計画を大きく上回り、12月27日をもって終了の予定です。

サケ定置網漁業は11月末で終了し、漁獲量は485トンで対前年比48.8%と半減しましたが、価格の高騰から、対前年比12%減の4億6千万円とのことです。

カキについては、稚貝付着不良や2年カキの弊(へい)死があったため、昨年比40%の水揚げで総販売額は1千万円を見込んでおります。

本年の佐呂間漁協の総水揚げ額は、対前年比13%減の32億円が見込まれるとのことです。

■林業について

町有林については、造林事業・下刈事業など46箇所が完

了し、現在、除間伐事業2箇所を実施中で、今後も間伐事業などを5箇所行う予定となっております。

昨年の積雪の影響で、造林事業量が増えておりますが、国の補助制度を活用しながら継続的な森林資源の保全に努めています。

また、民有林につきましても森林組合が補助制度を活用しながら、造林事業・下刈事業など315箇所を実施しており、民有林の適切な保護育成が進められています。

■商工業について

プレミアム付きふるさと商品券の販売が11月26日に行われ、商工会独自イベントを組んで販売促進に取り組んでいます。

商工業活性化補助金につきましては6件、住宅建設事業補助金につきましては新築1件、増改築16件、トヨタイヤー販売促進事業につきましては第2四半期まで222本の販売となっております。

■公共事業の執行状況

本年度の工事と委託事業

については、昨年度からの繰越事業である災害復旧工事を含めて46件、事業費総額5億6300万円の事業が発注されています。

道管畑地帯総合整備事業(若佐地区)及び道管草地整備事業(オホソク佐呂間地区)は、計画どおりに発注され順調に工事が進められており、道管畑地帯総合整備事業(サロマ東部地区)につきま

しては、本年度は調査設計のみの事業となります。

■恵尚会の役員人事

平成17年5月9日の医療法人設立以来、理事長を務めておられました岩月尚文氏が退任され、平成29年11月1日付けをもちまして、新たに鶴木和久氏が理事長に就任されたとの報告がありました。

鶴木氏はクリニックスさろま院長であり、平成24年1月に恵尚会に入職され、地域医療事業室長として地域医療の発展に力を尽くされています。

鶴木氏は理事長就任後も、クリニックスさろまの院長として勤務を続けていただけたとの報告を受け安堵している



再開が待たれるルートイングランディアサロマ湖

恵尚会の理事長となつた鶴木和久院長へのインタビュー記事が、巻末に掲載されています。

■ルートイングランディアサロマ湖の再開遅延

ルートの開業(株)の開業部長とコンサルタント担当の(株)日建社の社長が11月1日に来庁し、ホテルの

ところですが、過疎・高齢化の中で予防医療の重要性が一層高まってきたことに鑑み、恵尚会とこれまで以上に連携し、町の一次医療体制の充実強化を図ってまいります。

再開準備の経過について説明を受けました。

現在、保健所に対し営業許可の再取得を進めているとともに、内部設備や施設の改修を行っているとのことです。が、営業許可を取得するのに年内一杯かかる見込みであること、これから手掛ける外部改修の資材繰り等に時間を要しているとのことです。

一番の問題は、従業員の確保が思うように進んでいないとのことで、地元や近隣を基に募集を行っているものの、働く人がおらず大変苦慮しているとのことです。

ルートインとしても来春のオープンを目指し、この冬に施設改修と従業員の確保を行っていききたいとのことであり、予定していた再開時期の大幅な遅延に対しておわびを受けたいとのことです。

■固定資産税の課税誤り

昭和50年に町内富武士に新築登記された個人の専用住宅について、建築から2年後の昭和52年に所有権が移転されたにもかかわらず、40年間にわたり、移転前の所有者に課

税していたことが、現所有者のご家族からの問い合わせにより判明しました。

原因としては、当時の担当者が所有者移転に伴う課税台帳の変更処理を怠ったことによると考えられ、その後この専用住宅については登記上の移動もなく、また前所有者においても複数の資産を所有していることから、誤りに気付かないまま40年余りが経過したものと推測するものです。

誤って課税していた前所有者の方には、直ちに副町長と担当課長が出向きおわびした次第ですが、誤って納付された固定資産税については、町の要綱に基づき、20年分を還付させていただくことで了承をいただいたところです。

また、現所有者に対しましては、地方税法に基づき平成25年度からの4年間分と今年度の固定資産税について追徴させていただくものであります。